

第5学年 総合的な学習の時間指導案

1. 単元名 B自然調査隊Ⅱ

2. こんな子どもだから

1学期のB自然調査隊Ⅰで、樹木を調査する子どもたちは、〇〇〇〇山の樹木の種類を、葉を採取して図鑑やゲストティーチャーの先生に尋ねたりしながら調べを進めてきた。

子供たちは、最初は図鑑やインターネットを中心に調べを進めていたが、なかなか葉の種を断定することができず、ゲストティーチャーの先生に入っただき相談できるようにした。予想した葉の種類をゲストティーチャーの先生に尋ね確認していく中で、調べ方等を教えてもらい調べる意欲の向上が見られた。グループ毎に調べたことを交流する中で、〇〇〇〇山にある樹木の種類を確認していった。確認していく中で、クスノキにはアオスジアゲハがよく来るという関係をしることができ、自然同士のつながり（共生）にも目を向け始めている。15種類の樹木については断定することができ、子供たちはゲストティーチャーの先生と学習を進めていくことの良さを感じはじめている。

3. こんな教材で

B校区は、学校内に〇〇〇〇山があり、学校のすぐ周辺にK山がある。〇〇〇〇山は子どもたちが低学年のころから遊び親しんでいる山である。遊びの山である〇〇〇〇山においては、自然を守ろうというみんなの意識は低く、土肌が見えている所もある。

K山は、里山クラブの方々毎年手入れをし、自然をしっかりと守られている山である。

そこで、2つの山の自然の様子を調査し、似ているところや違うところを調べていく中で、どちらの自然が豊かであるかを見ていきたい。そして〇〇〇〇山を遊びの山としてとらえるだけではなく、自然を守るという視点から見直させ考えさせていきたい。

そこで子どもたちは1学期、GTの方に尋ねたりしながら〇〇〇〇山の自然を調査してきている。2学期はK山に入り、同じ方法で調査を行うことにする。GTや同質グループの友達とかかわる中で、K山と〇〇〇〇山と自然の様子のちがいを比べさせたい。またグループ交流を行う中で自然界の動植物には生態系があり共生しあっていることを考えさせたい。その中で人間も自然に影響を与えていることに気づかせ自然に対するかかわり方を見直させていきたい。

4. こんな支援で

【対話が成立する単元構成の工夫】

- 単元の初めに追究していく方向性を明確にもたせることで探究的な学習になるよう工夫する。
- 追究の視点として「自然の様子」「自然のつながり（共生）」の2つを常に意識しながら追究や交流を行う。

【対話が成立する人とのかかわりの工夫】

<GTとのかかわり>

- できるだけ小グループでのかかわりになるよう、多くのGTに入ってもらおう。
- かかわっていただく中で子どもの調査を認めていただく他者評価の場を設定する。

<児童同士のかかわり>

- グループ内でポートフォリオをもとに学びを振り返りウェブ図に整理する時間を設ける。
- 情報の共有を図るためできるだけ小グループでの話し合いの場を設ける。

<教師とのかかわり>

- 各グループの状況を把握するために毎時間振り返りプリントを用意しそれをもとに方向性を明確し助言していく。

5. こんな子どもに（目指す子どもの姿）

- 〇〇〇〇山とK山の自然の様子を知るために、進んで「人・もの・こと」に積極的に働きかけ探究することができる。（問題解決能力）
- K山の自然に直接ふれたり、人に尋ねたりしながら情報を収集していく中で、2つの山の自然の様子を比較できるとともに、自然や人間は関連しあっている（共生している）ことを考えることができる。（学び方やものの考え方）
- 探究活動の中で分かったことを、ウェブ図に表したり、わかりやすい表現を用いてまとめていくことができる。（主体的・創造的な態度）。
- 今までの自然に対する見方・考え方を見直し広げたり深めたりすることができる。（自己の生き方）

6. 指導計画 (32時間)

段階	配時	学習活動と内容	主な支援	評価活動【評価項目】
ときめく	1	1. 1学期の〇〇〇〇山調査について振り返る。(内容・方法) ・ウェブ図作成	・〇〇〇〇山で調べたことをウェブ図に表し確認させる・	・ウェブ図を作成しわかったことを整理することができる。
	1	2. 2学期のK山調査についてのめあてを立て方向性を明確にする。 ①〇〇〇〇山とK山の自然度を比較する。 ②自然度が低い理由を考え自然度を高めるためにできることを考える。 ③校内で自然保護を呼びかける活動を考える。 ・ウェブ図の確認	・2つの山の自然度を比較した後どのようにするかを考えさせる。 ・調査を進めていく中で「自然度」「自然のつながり(共生)」を観ていくことを確認する。 ・時間数を子供たちに知らせておく。	・2学期の方向性をもつとともに、グループで何をどのように調べるか明確にすることができる。
もともとめる	4	3. GTと共にK山へ行き調査活動。 ・必要な自然物を採取・調べ方を教わる	・適切な資料等をGTと打ち合わせておく。 ・次の時間までにやっておくことを明確になったか助言し確認する。	・GTと話しながら必要となる物を採取することができる。
	2	4. グループ活動 ・GTに教わった調べ方で採取した物をグループで調べる。	・適切な資料・図書等を用意する。	・正しい調べ方で採取してきた物を調べることができる。
	4	5. GTとの協同活動 ・自分たちで調べた内容の確認を行う。 ・GTと話し合いグループ活動 ※K山・〇〇〇〇山へ再調査に行く。 ※採取したものの調べ	・前時で調べた内容をGTに確認し明確にする時間を確保する。 ・グループによって活動内容が異なるのでGTと話し合いの上活動を決めさせる。	・GTに進んでかわり自分たちの調査を協力して進めることができる。
	2	6. グループ活動 他のグループとの交流に向け、ハンドブック作成の打ち合わせを行う。 ・ウェブ図を整理する。 ・標本の扱い方を考える	・ウェブ図を整理する中でわかったことを明確にさせるとともに、自然のつながりにも目を向けさせる。	・グループで学びを振り返りウェブ図にまとめることができる。 ・これからの活動を見通すことができる。
	2	7. グループ交流タイム ・ウェブ図をもとに、どのグループと話し合いを行いたいかを定める。	・自分が知っている情報をもとに、何について明確にしたいかを考えさせる。	・担当した樹木の正確な情報を対話の中で得ることができる。

も と め る	2	9. 異質グループ（鳥グループ・虫グループ）との交流を行う。 ・質問する ・確認する ・新たな情報をもらう ※分かった情報をウェブ図に追加する。	・各グループの情報が十分出てくるような少人数での対話の場を工夫する。	・積極的に情報を確認するとともに、新たな情報を聞き取り新たな見方・考え方をもちることができる。
	1	10. 異質グループとの交流 (交流することで考えが深まるグループと交流)	・各グループの情報が十分出てくるような少人数での対話の場を工夫する。	・積極的に情報を確認するとともに、新たな情報を聞き取り新たな見方・考え方ができる。
	1	11. 自分たちにできる自然保護活動を計画する。 ・標本をもとにハンドブックを作成する。 ・自然保護に関する活動計画	・時間内にできそうなことを考えさせる。	・自分たちにできそうなことを考え計画し協力して取り組むことができる。
あ ら わ す	3	12. 計画に沿って自然保護活動を行う。 (例)・〇〇〇〇山の樹木で伐った方がよい樹木を伐採する。 ・樹木名札をかける。 など		
	3	13. 〇〇〇〇山の自然保護を伝えるための活動を計画し実際に行う。 (例) ポスターに表す 校内放送で呼びかける。 新聞に表し配布する。 など	・相手意識、目的意識を十分もたせる。	・相手を意識し、学びを生かした適切な方法を考え、協力して取り組むことができる。
	1	14. 自分の今までの学習をふり返る。 ・自己の成長を確認する。		・自分の学びとともに自然に対する見方・考え方の変容をふり返ることができる。

7. 本時(17・18/32)

平成21年9月29日(木) 2:15~3:45(90分)

8. 本時の目標

(問題解決能力)

- ・積極的に他のグループの人とかかわり合い情報を提供するとともに、樹木と関係する新たな情報を収集することができる。

(学び方やものの考え方)

- ・他のグループの友達との対話を通して、樹木と虫や鳥との関連を考え、今までの自分の調べをふり返り、〇〇〇〇山やK山に対する新たな見方・考え方をもちることができる。

9. 本時の仮説

樹木と虫・鳥との関連が〇〇〇〇山やK山に存在しているかを確認するために(目的意識)、虫や鳥グループの友達と(相手意識)ウェブ図をもとに対話を行うことにより、〇〇〇〇山やK山、自然同士の共生に対する認識(見方・考え方)を広げたり深めたりすることができるであろう。また自分自身の活動への取り組みをふり返ることにもつながると考える。

10. 本時指導の考え方

樹木グループでは、各自ウェブ図を自分なりに作成してきている。ウェブ図には、樹木の名称のみではなく、ゲストティーチャーに教えてもらった樹木と鳥との関係や、樹木と虫との関係をも明記している。鳥や虫に関しては、学習の中で見たことはないため、実際に〇〇〇山やK山に生息しているか否かを、鳥や虫グループの友達と交流する中で確認させたい。子供たちは前時に、虫や鳥グループに対して質問したいことや教えたいことなどを考えている。本時では、ウェブ図もとに、鳥グループと虫グループとの対話を2回行い、情報の発信と受信を行う。1回の対話を20分、司会を立てながら行う。対話が終わり次第、感想を付箋に書いて対話相手に渡し、相互評価の場をもつ。

このような対話の場をもつことで、自分が調べてきた情報に確信を持つことができるとともに、虫や鳥の情報の中から樹木につながる新たな情報を得ることもつながり、自分自身の今までの〇〇〇山やK山、自然同士の共生に対する見方・考え方をふり返り、新たなものの見方や考え方を培うことができる。と考える。

11. 準備

(児童) 自分のウェブ図・総合ファイル・樹木の標本

(教師) 自己評価プリント・相互評価用付箋・全グループのウェブ図

12. 展開 (90分)

学 習 活 動	支援 (○) と評価 (※)
<p>1. 今日の前あてを確認する。 前あて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>他のグループと交流し、自分が知っている情報を確認したり、新しい情報を集めたりしよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><対話の目的></p> <p>①情報の受信・・・樹木につながる新たな情報を得る。</p> <p>②情報の発信・・・分かっている樹木の情報を相手に提供する。</p> <p>※対話を通して、自然に対する新たな見方・考え方をもちことができる。</p> </div> <p>2. グループ毎に対話を2回行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ図を見ながら、分からないことを質問する。 ・ウェブ図を見ながら、その樹木と虫との関係を教える。 ・対話後、付箋に感じたことを書いて渡す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>対話1回目 (虫グループとの対話) 20分</p> <p>対話2回目 (鳥グループとの対話) 20分</p> </div> <p>3. 今日のふり返りを書き、今日の学習での学びを発表する。</p>	<p>○対話を行うグループの確認をする。</p> <p>○対話の方向性がずれないように対話の目的を板書し明確にしておく。</p> <p>○対話の進め方を教える。</p> <p>○タイムスケジュールを板書する。</p> <p>○標本を掲示しておく。</p> <p>※対話の目的を明確に対話を行うことができる。</p> <p>○樹木の標本を見せたりして対話を進めるよう助言する。</p> <p>※虫 (鳥) の存在を確認することができる。</p> <p>○話し合いが滞っているグループには助言を行う。</p> <p>※友達の話をしっかり聞き取るとともに、自分の調べてきたことを十分生かすことができる。</p> <p>※友達との対話や相互評価をもとに自分の調べをふり返ることができる。</p> <p>※対話する前と後の気づきをもとに自分のK山や〇〇〇山、自然全体に対する見方・考え方をふり返ることができる。</p>